

19/9/9 河村たかし名古屋市長 定例記者会見 名古屋城部分

(名古屋市民オンブズマンによる半自動文字起こしアプリによる文字起こし)

記者：朝日新聞の山下です。

名古屋城のことですが現状その、市が何か求められてやっているということのか、ある程度文化庁には全て投げていて判断を待っていることなのかという状況なんですか

市長：まあちょっと以前から確認をさせてもらった方がええかもしれませんがええかなあ。文化庁からこの間ちょっと言いましたがね、延ばすということ 5項目ですけど。

具体的に天守の下を、地下を調べてくれたとか。

それから、孕みのとこ調べてくれとかいわれておる。これはきちっとやってねと。

あとは石垣部会とちゃんまとめてくださいと言われておりまして、まあ 5項目についてはきちっと申請もしてありますから、いただいておりますので、いっていますから文化庁には。だから石垣部会の皆さんがこれで一緒にやっという。これから若干いろんな話があるとして言っただけならば、名古屋市民の夢は叶います。

記者：では今その解体を出しているじゃないですか。申請としては。

それについては石垣部会と仲良くやってちょというのは入っているわけなんですか。解体の許可に。

市長：入ってます。

記者：ということはまあその。例えば今月中にも解体の許可がでるのかというそういうのはないわけですね。

市長：石垣部会の皆さんが **Let's get together.**一緒にやろうというふうに言っただけならば動くと思います、はい。

記者：その他の条件というものはもう満たしている。

市長：はい満たしています。そこまで言うと感じ悪いけどか言われるけど、あんまりどっかの時点でやっぱり市民の皆さんにはっきりと言わんでいかんでわしも。文化庁はいろいろあるですけど全部を一遍オープンにさせてちょ、今言った話などをいうつもりですけど。一応まあやっぱり審議会のことですので、まあちょっとそれはというような話になるんですわ、どうしてもそれはね。

記者：失礼ですが市長はまた文化庁に行かれるような話もありましたけれど、それはどうなさいますか。

市長：まあそりゃもうまあ一遍行ってもいいですけど。はっきりあんまりなんなんですか

ど、石垣部会とを一緒にまた、まとまって市で出してちょうだいと言われてますんでそれです。それだけと言うと怒るかわからんのですけど、だけに近いということですから。石垣部会の皆さんに丁寧なうえにも丁寧にとご説明申し上げて、一緒にこういうふうで夢物語であった名古屋城の木造復元を実現させましょうと。いうみたいな話をするということです。そこだけです。だけというあんまりといかんですが。そういう事です。

司会：あと各社さん、ないですか。

記者：毎日新聞です。名古屋城の関連で今年度、予算が通っているもんでまだ執行されていないもので最近見通しが立たなくなっている状況で止めるものとかあったりするんですか。

市長：いや予算が通っておるやつとか肅々とやらさせていただきますわ。見通しがということでは実はないのですが、実はないですわという話ばかりをするなと怒られてしまうんでいわせてもらってもいいんですけども今言った辺のところですよ。石垣部会と話をまとめてちょと。

名古屋市も市民も重要ですけど、やっぱり一応専門家の皆さんと一緒に名古屋城の木造の夢物語を実現させるというこでやっていくだというふうになれば、なつてちょうだいと。

記者：石垣部会の先生方が何か。

市長：そりゃ、これからまた今でもそうですけど、局長がまずね、わしが誠心誠意話をしますんでとまあ今こういっております。

わしでも何回もいっておるんで、わしでも 2 年前から夜一杯飲みがてらでも酒なしでもいいですけどとにかく話し合いたいと、それから穴太衆という石垣の社長が言っていました。

「河村さん、他の穴太衆はみんな自治体が石垣部会の人達に頼むんだと、これで頼んますわとそれやらんでいかんわ」というんでわしはそんでこういう性格もありますんで「話させてちょ」と言ったんで「個別に河村さんと話し合うできない」と言って、本人がいったかどうしらんよ。名古屋城の役人からの伝言ですからこれは。だからこうなった。いつでもチャンスがあったんだけど、むしろ文化庁からもはっきり言われるようになりましてこれほんとに。

石垣部との話をまとめてちょ。もうだからそれやらないかん、これを。

記者：すいません、予算の関連ですけど保管庫の予算ですけど、これは解体許可が出る前にもう 1 回出し直すということはあるんですか。それとも解体許可が出ないともう出さないんですか。

市長：許可が出ない。出ますからそれ。

記者：いやそうじゃなくて質問に答えていただきたいんですけど、早々に次の11月議会に出すのか、それとも暫くちょっと考えてから出すのか。

市長：そりゃなるべく早く石垣部会の皆さんと話ができてなるべく早く出すということでしょう。そういうことでしょ。

記者：石垣部会との話がついたらってことなんですね。

市長：まあ一応そういうことで延ばしましたんでやっぱ。そういうことで一応延ばしましたんで。いうことでそうですよ。

そんな文化庁自体が血も涙もないようなことはありませんよ、言っときますけどそうですよ。これ文化庁が聞いてくれると有り難いたいけど。

文化庁は日本の文化を進めなんといかん所じゃないですか。

国宝1号であったお城で図面があると市民も皆、皆とって100%じゃないけど僕の印象じゃほとんどの特に歳の食った市民の皆さんが早うもう一回名古屋城の誇りであった木造天守をやってちょと言ってる、文化庁は血も涙もあると思いますよそりゃ。

名古屋のことだけじゃないもの。日本というか世界の問題ですよ。

木造の文化というか一端焼けたものをもう1回復元させると。物凄いこれ夢ですわ実は。これを実現させると、日本の文化だとか伝統だとかこういうものを引っ張ってくというのを文化庁は願ってくれていると思いますよ名古屋の人達に。

石垣部会の皆さんにそう言うだわ。いろんなこと聴いてきましたから。わし等のこっこのことだけじゃないもん。石垣部会さんんのこともようけ聴いてきましたんで、でしょ、と思いますけど。

ただし、服部さんなんかセンターの理事長の服部さんは「河村さん、これは夢なんだとこれやっぱこれ名古屋城木造復元は。だでいろんな苦勞があるけど頑張らんないかんわなあ」ってあの方は文化庁出身ですけどそう言ってますわね。

本当に年食った人からもいろんな所で言われる。この間も時期延ばしたということもあって、早うやってちょうよ、いってまうまで、頼むよ河村さん。一遍上がらしてちょ上に、死ぬまでにと。物凄いですよこういう皆さんの名古屋の市民の熱い期待というのは、本当に。